

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公開番号】特開2000-24210(P2000-24210A)

【公開日】平成12年1月25日(2000.1.25)

【出願番号】特願平10-211862

【国際特許分類第7版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月7日(2005.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を有する図柄表示器を設け、制御フローに従って、1個の入賞球によって生ずる図柄変動信号により判定カウンタHcで大当たりか否かを判定すると共に前記図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、前記図柄表示部の図柄が確定表示する可変表示ゲームが行われる遊技機であって、

前記1回の図柄変動開始信号によって実施される可変表示ゲームの制限回数を抽選で選定し、前記制限回数に対応して区分表示の小図柄表示部を形成し、この小図柄表示部を介して可変表示ゲームを行うことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

【課題を解決するための手段】

請求項1の遊技機は、複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を有する図柄表示器が設けてあり、制御フローに従って、1個の入賞球によって生ずる図柄変動信号により判定カウンタHcで大当たりか否かを判定すると共に前記図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、前記図柄表示部の図柄が確定表示する可変表示ゲームが行われる。

そして、1回の図柄変動開始信号によって実施される可変表示ゲームの制限回数は抽選で選定される。この選定された制限回数に対応して、小図柄表示部が区分表示され、この小図柄表示部を介して可変表示ゲームを行う。

例えば、図9(A)(B)に示すように、抽選によって、制限回数が「2」であるときには、小図柄表示部M1、M2を使用して可変表示ゲームを行う。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

【発明の効果】

請求項1の遊技機は、1回の図柄変動開始信号であっても、抽選によって、可変表示ゲームを複数回、実施する場合があり、小図柄表示部を使用して迅速に可変表示ゲームを行うことができる。